様式４

令和５年度　墨田区立第三吾嬬小学校　経営報告書

校長名　　川中子　登志雄

学　校　目　標	「自立」　自ら学び、考え、行動する人 「共生」　思いやりをもち、共に生きる人 「健康」　しなやかで丈夫なこころとからだをもつ人
目指す学校像	「すべてはみんなの笑顔のために」　三吾小に集う子供、保護者・地域、そして教職員、すべての人の笑顔あふれる学校
目指す子供像	「学ぶ」ということを通して、「思いやり」の上に立つ真の教養と品格とを身に付けようとする子供。そのために、主体的(proactive)に生きる子供。
目指す教師像	①教育への情熱と使命感にあふれた教師　②自らも学び、子供とともに感動することのできる教師　③社会人としての教養と品格のある教師

１　自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
教科指導等【学力の向上】	児童を学習の主体にさせる授業改善を図り、シンキング・サイクルを活用した主体的・対話的な学びを進めることができるようにさせる。	3	1	○学力向上委員会を中心に、全校で計画的な取組を行い、墨田区学力調査では目標を達成することができた。 ○各クラスで、児童を学習の主体にさせる授業改善を図り、シンキング・サイクルを活用した授業実践をすることができた。 ・学力向上委員会を中心に、学力の実態把握、分析を行い、タブレット端末も活用しながら効果的な振り返り学習を実施する。授業改善の研究を進め、学年や学校全体で児童が主語となる授業実践を行えるようにする。	A	A
	主体的な家庭学習習慣の定着を図る。	1	4	○主体性を重視し、課題を児童が選んだり決めたりできるように取り組ませている学級が増えた。しかし、学校全体の取組として着手できず、各学級まかせになってしまった。	A	A

様式４

				○保護者に向け、家庭学習の新たな進め方の意味を伝えてきれていなかった。 ・教員や保護者に「主体的な家庭学習」でめざす児童の姿を示し、校内の学力向上委員会を中心に、児童の実態に応じた家庭学習の取り組ませ方を考えていく。 ・本校の家庭学習について、保護者に定期的に知らせ、理解したり協力してもらえたりするようにする。		
	児童の自己肯定感を高める評価方法について研究を深める。	2	4	○通知表（評価）プロジェクトチームを中心に、児童自身の振り返りを重視した通知表（評価）の見直しをすることができた。 ○教科の評価については、着手できなかった。 ・プロジェクトチームを中心に、児童の自己肯定感を高める評価方法の研究を進め、通知表に変わる新たな評価法を提案する。 ・よりよい評価の方法、あり方について多くの教員から意見を集め、検討する時間を確保する。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・どうしても数値評価になってしまう ・学校側だけでなく、保護者の意識が重要では 自主性というものを評価することの難しさ。いっぱい自主学習やった子が好評価ではないと保護者にも理解してもらう必要があるように感じました。 ・まだ、数字が分かりやすいように教育がなっているような感じ。これからのあり方に期待している				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
生活指導等	【人権の尊重】 児童の主体性を育み、協働し、いじめが起こりにくい集団づくりを行う。	4	4	○いじめの捉え方を変化させた結果、認知した件数は196件。11月アンケートでは、全て解決済みであると報告。学年会で児童の様子を共有したり、学校生活アンケートを行うことで早期の段階で対応できている。校内研修を行ったことで、「いじめ」に対する教員の認識「いじめ対策」に対する理解が深まった。 ・児童間のトラブルを小さなものでも学年会や生活指導夕会で学校全体の情報を共有できるよう発言しやすい環境を整える。 ・早期発見、早期対応ができるよう「シャボテンログ」を活用し、教員側から見えにくい部分についてもしっかりと把握していく。	A	A

様式４

	【特別支援・インクルーシブ教育】 組織的な対応で、不登校問題を含む特別支援の課題解決を図り、個々の児童の特性に合わせた支援を行う。	4	2	○長欠13日以上の不登校傾向児童は51名で、内明らかな不登校傾向の児童は21名、不登校傾向出現率9％である。児童や特別な配慮を要する児童は、学校外の支援につなげたり、まなびの教室や SC、SSW、学習室「みどり」を活用した支援を行い個々の特性に合わせた支援を行った。 ・長欠児童が早めに学校内外の支援とつながることができるように、SC、SSW 等関係諸機関と連携をとる。また、学習室「みどり」に人的配置を実現できるよう行政に働きかけると共に、不登校児童や特別な配慮を要する児童が個々の児童の特性に合わせた学習が行えるよう校内体制を整える。	A	B
	【主体性の育成】 学びや生活の意志決定を児童に委ね、その決定に責任をもつ態度を育成する。	3	3	○研究1年目前期は課題設定・情報収集期として児童の主体性について講師を招いて研修した。後期は、発展充実期として授業実践に取り組んだ。主体性のある児童の姿や児童が主語となる授業についてイメージを共有し、教員の意識は高まった。 ・児童の主体性の育成を目指し、児童を主語にした授業の実践のため、自由進度学習や複線型学習、課題解決型学習など方法を模索し、実践していく。縦割り班の異学年交流活動を週時程に取り入れ、重点化していく。	A	B
	【健康、安全教育】 感染症予防の正しい知識に基づき、健康維持のために主体的に適切な行動が取れるようにさせる。	4	3	○5 月以降、家庭や学校からの呼びかけとともに、マスク着用が減り、感染症への適切な行動を進めることができた。高温や感染症の状況により、マスク着用・学習活動の進め方について、呼びかけと主体的な選択を促すことができた。 ・引き続き、感染症予防に配慮しながら、自ら健康に生きようとする態度を養えるよう、学年の実態に合わせて保健指導等を継続的に取り組んでいく。	B	B
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・噂で聞くレベルですが、先生が暴力やいじめに気が付いてないケースもあるのでは？ ・学校には来ないけど、児童館には来ているみたいな不登校児童を把握して連携している人が入って充実されることを願います。 ・保護者アンケートにはかなり問題意識をもつ方もいたようなので子供が安心して学習ができるよう補助の先生などの配置をした方が良いクラスもあるのかなと感じました。				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
学校の管理運	全校体制で校内研究を進め、あらゆる角度から「児童の主体性の育成」を図る。	4	1	○「児童の主体性の育成」を目指し研究を進めた結果、各学級での取組に変化が見られてるようになった。児童肯定的回答は、前期と共に86％であり良好ではあるが、児童のアン	A	B

様式４

				ケートは、伸び率が見られなかったので、児童への意識の向上が次の課題と考える。 ・学習や特別活動、行事を通して、主体性の育成を一層目指す。主体性を児童に価値付け、実感させるために、学習や特別活動、行事の振り返りを丁寧に行う。		
	教員としての使命を自覚し、服務規定を遵守するとともに、組織的に研修を推進し、教員の資質・能力の向上を図る。	4	4	○問題形式のワークシートや人権教育プログラム等を活用し、計画的に研修を行った結果、服務事故０件を達成することができた。 ・常に当事者意識をもって研修にあたり、職場全体として、事故防止の意識を保ち、服務事故0を継続する。	A	A
	「児童の主体性の育成」研究と一体的に、教職員の働き方改革を推進し、教職員の身体的・精神的な健康を守る。	3	2	○スクールサポートスタッフの活用などにより、職務の負担軽減を進められている。勤務時間の短縮を意識している傾向は高まっているが、全体として道半ばである。 ・今後も職務の精選と効率化を常に念頭に置き、重点を決めて経営、運営を行う。月に数回の定時退勤日などを設け、メリハリのある勤務を目指す。主幹、主任の職務を全うできるよう意識改革を図る。	A	B
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・アンケートの結果が批判的なものではなく、逆に真面目に考えているからこそ、アンケート結果で否定的なものが出ているのかなと思いました。 ・自立の気持ちは育成されているように感じます。 ・働き方改革との両立が大変かと思いますが、取り組み自体がかなり評価できる内容に思います。 ・土曜授業が来年度から減るので、先生の負担が少なくなってくれたらいい。				

項目	取組目標	自己評価			学校関係者評価	
		達成状況		○分析　・改善方策	自己評価について	改善策について
		取組指標	成果指標			
家庭・地域連携	地域の教育財産を生かし、地域を知り、地域を愛し、誇りに思う児童を育成する。	4	4	○「書写」「キャリア」「音楽」等を実施。GT 授業回数、1 年５回、2 年 3 回、3 年 4 回、4 年 5 回、5 年 3 回、6 年 6 回、全体で２６回だった。コロナの制限が解除になったため、学校支援ネットワークを活用して、新たな GT 授業を行うことができた。 ・キャリア教育特別授業では新たな GT を招くことができたので、来年度に引き継ぐ。 ・新たな取組、GT を新規開拓できるように、ねらいや時期を検討し、年間を通して計画的に実践する。	A	A

様式４

	積極的に教育活動の情報発信を行い、保護者・地域の学校教育への理解を深め、教育活動への参画を促す。	４	４	○授業日はほぼ毎日 HP を更新することができた。保護者への通知を全て電子化したことにより情報発信・収集を迅速に行うことができた。 ・今後も保護者・地域の教育活動への理解が深まるよう動画等も活用し、積極的に情報を発信していく。	A	A
	学校関係者評価委員会の評価委員による、学校運営の改善に向けた実際の取組についての意見等	・家では体験できないことをさせていただき素晴らしいです ・アンケート回答率などかなり協力されていると感じました。				

２　令和５年度学校評価のまとめ

大胆な学校改革に挑戦した初年度であったので、これまでの学校経営と比較すると成果よりも課題が多くなったとみている。ただ、課題が明確になったというのは大きな成果であるとも言えるだろう。

児童の主体性の育成のために、教員が多くの講師の指導を受け、自分たちの目指す方向を少しずつ把握し始めている。これまでの指導法をすて、新たなことに挑戦するのには、教員は覚悟を決め、勇気を出して、子供たちを信じ、任せ、共に悩み成長していく必要がある。令和の日本型学校を支える教員は、子供の学びの「伴走者」であるという。今年度はゼロからのスタートだったが、目指す先に光が見えてきたところである。来年度も引き続き、改革を推進し、成果を出せるよう努力していきたい。

以上の通り報告いたします。

墨田区立第三吾嬬小学校　校長　　川中子　登志雄　　公印